

えんぼとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 138 号	2013年1月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 年頭のあいさつ (会長 今井和男)

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶びを申し上げます。昨年は会員皆様のご協力、ご支援により、活動等は、円滑に実施できました事を、心から厚くお礼を申し上げます。

会の運営体制(NPO 法人宇部環境コミュニティの傘下での活動)が移行一年目で維持管理が中心に活動を実施しました。その取り組みを振り返ってみますと

○ 田植えから収穫祭の開催

親子自然観察隊員・二俣瀬子ども会親子並びにつくる会会員の参加で、田植え、稲刈り、ハゼかけ、稲こぎ、さらに餅つきと多様の企画で実施しました。なかでもイナゴ捕り、雑草の除去には大変のご苦労があったと思います。厚東中学校生徒のイナゴ捕り、手押し除草機での除草も夏休みの暑い中ボランティアでの活動もありました。

○ 親子自然観察隊員の学習体験

4月の入隊から、12月の9回にわたり、多数の参画を戴き、野草の採取、野鳥の観察、田植えから餅つきを盛大に実施しました。特に11月の「里山の暮らし」の古い時代の手こぎ千歯、足史脱穀機、ダイガラ臼の精米、唐ミイによる選別等の体験は大変な学習体験となったと好評を受けました。

○ 維持管理の実施

水路・散策橋修復作業、エコアップ並びに草刈りを実施しました。参加者が固定化してより多数の参加がほしいものです。

○ 他団体との交流

宇部市地球温暖化対策ネットワーク外各協力団体との理事会に参加しました。

- ・エコ仲間への講師派遣
- ・NPO 法人への総会の参画
- ・カーボンオフセット植樹祭への参加
- ・生物多様性地域連帯保存活動協議会の参加

本年は過去の活動を反省しながら、「里山ビオトープ二俣瀬」のコンセプトを念頭に可能な限り活動の充実を図り取り組みます。

終わりに、会の発展と、会員の皆様のご多幸を祈念し年頭の挨拶といたします。

2. 活動報告 (事務局 記)

—1月19日(土)初集会 21名参加され新年の互礼と今年のメインの活動計画を決めました。内容は後述「8. 会よりの連絡事項」に記入

—1月20日(日)湿地帯のスゲ草除去(前田)・一輪車のパンク修理・入り口坂道修復(車地有志)

3. 今後の予定 (事務局 記)

◎見学者 — 現在のところ計画は有りません

◎行 事

—2月3日(日)維持活動田んぼの荒起しのため厩肥散布、シイタケのホダ木整列、エコアップ

—2月16日(土)維持活動(エコアップ、修復作業)

4. 来訪者の声

今月は有りません

5. 会員の声【観察隊の活動をふりかえって】（中本 亜矢子 記）

この一年間、観察隊の活動に関わらせていただき、無事に終えることが出来、ほっとしております。皆様のご協力があったので、本当に感謝しております。

私は、会員になってからずっと、10年近く観察隊に関わってまいりました。

当初は、隊員の保護者として、会員の皆様のお世話で、野鳥の観察、田植え、草花、昆虫、水辺の生き物、稲刈り、里山の暮らし等、体験させていただきました。観察隊でこれらの体験をすると、自分たちだけでは見過ごしてしまう植物や昆虫を教えていただいたり、動物の巣や猪が通った痕跡を教えていただいたり、本当に勉強になりました。田植えも稲刈りも脱穀も初めての体験で、自分も子どもの頃の気持ちにかえって心から楽しませていただきました。

もう何年も観察隊に参加していますが、この体験を通じて四季折々の自然を感じ、自然と共存しながら暮らす里山の暮らしに触れ、伝統や文化の継承の大切さも実感できるようになりました。今は、少しでも、子育て世代の親子の皆さんに、自分たち親子と同じような充実感を味わっていただけたらと思いつながらお世話をさせていただいています。

子どもが参加する観察会は他にもたくさんあるようですが、「親子」で参加できる会は少ないのではないのでしょうか。子どもは大人が驚くほどの速さで成長していきます。親子で同じ時間を過ごせる時期は限られているので大切にしたいですね。そういう意味では、親子で観察隊に参加し体験を共有することは、とても良いことだと思っております。ご都合のつくご家庭は、ぜひ来年も親子自然観察隊に参加していただけたらと思っております。そして、観察隊を卒業されたご家庭でも、自然や里山ビオトープ二俣瀬の維持管理に関心のある方は、ぜひ会員になって私たちの活動を引き継ぎ、発展させる活動に関わっていただけることを願っております。

6. 親子自然観察隊

12月15日の観察隊（収穫祭：餅つき）の感想

★山本将大くん

ダイガラは押す（蹴る）タイミングが難しかったです。お餅はつきたてで美味しかった。

★山本将大くんの親御さん

今年の収穫祭では、初めてお餅の機械に触らせていただきましたが、なかなかうまく行かず苦労しました。年末の実家で子供も一緒にやりたいと言っておりますので、連れて行きたいと思います。何にでも興味を持ってくれることは親として非常に嬉しく思います。

年間を通しての感想

★山本将大くんの親御さん

今年の全体の感想としては、残念なのが昭和山に登っていなかったことと、田植えと稲刈りに行けなかったことです。やはり、里山の暮らし体験なので田植えから稲刈りにと参加させてやりたかったです。

あと、メンバーの方々の維持活動には、感謝の言葉では表せません。ありがとうございます。

★大井千晴さん

一年間、本当にお世話になりました☆毎回毎回、身にしみるほどの体験ばかりで、すごく充実した時間を過ごさせて頂きました(^-^)/ この経験を生かして、日々の生活習慣をより良いものにしていきます(^_^)/

7. ビオトープ関連

「山口県のトンボたち」を始めるにあたり (管 哲郎 記)

皆さん、あけましておめでとうございます！本年もどうぞよろしくお願いたします！

”ビオトープのトンボたち”を終え、新年1月より新シリーズ「山口県のトンボたち」を始めます。ビオトープには10科54種のトンボを確認していますが、県内には11科97種のトンボが確認されています、その内の3種は大陸よりの飛来種(迷入種)です。ビオトープで紹介したトンボは省き、それ以外のトンボの紹介をさせていただきますので、このシリーズでは7科43種の紹介となります、どうぞよろしくご笑覧ください。

「山口県のトンボたち」

(1) ムカシトンボ (*Epiophlebia superstes*) ムカシトンボ科ムカシトンボ属

越年するトンボ以外では、毎年タバサナエと並び最初に発生する春一番のトンボです。

タバサナエは民家近くのため池で羽化しますので、みなさんの目に留まりやすいのですが、ムカシトンボは水のきれいな溪流をすみかとし、ヤゴは水辺から離れ溪流の崖をよじ登りあちこちに散らばって羽化しますので、よほど条件が良くないと羽化の姿を見るのが大変難しいトンボです。日本の特産種で、北海道～九州まで広く分布し、中国、四国地方では源流域に普通に分布しています。成虫は5月～6月中旬ごろまで見られます。

発生時期も県西部では3月下旬～4月上旬に、県北部では1カ月ほど遅れて羽化が始まります。5月の連休ごろが成虫のよくみられる時期ですが、山間部の溪流わきの開けた空間を高速で往復飛行する姿が見られます。なれないと飛ぶ姿を捕えるのは難しいかもしれません！頭上を”ピューと何か黒いものが・・・”といった感じで飛行します。ハイキング方々一度探索に出られてはいかがでしょう！その場合、食餌の時間帯ですので、しばらく待てば近くの木の枝に休止することが多く、採集のチャンスとなります。

全長5センチほどのかわいいトンボです。世界でもヒマラヤ地方、中国、それに日本の3カ国でしか確認されていません。幼虫(ヤゴ)は羽化するまでに5～8年必要としますので、変化に耐えられる環境条件が必要で、石灰岩質の多い山口県では、溪流が安定しており条件を満たされているため、あちこちで見られるようです。

休止する♂



羽化終了間際の♀



8. 会よりの連絡事項（事務局より）

（1）初集会で決定された25年度基本の活動

—平成25年度基本活動予定

- ① 親子自然観察隊の活動は継続行う
- ② 稲作体験も昨年度同様実施する
- ③ シイタケ栽培は原木の切り出し時期が既に過ぎているので26年度計画にする
- ④ 維持管理で大工事となる市道下水路修復、須賀河内川浚渫、トイレ問題は宇部市環境政策課に近々訪問問い合わせる事になりました。
- ⑤ エコアップ・草刈は従来通り計画をするが須賀河内川の葦の刈り取りは、状況を見て判断する。

—24年度の平成25年4月までの活動計画

- ① 田んぼの前準備 厩肥散布と荒鋤
- ② 24年度シイタケのホダ木の整列
- ③ 水路のU字溝の設置
- ④ 湿地帯散策橋のコンクリートU字溝に据替え
- ⑤ エコアップ外来種の駆除・繁茂種の間引き
- ⑥ 駐車場の草刈

—その他

- ① 会報・HP作成・協賛団体との係り合い等の協議

（2）4月の総会時天気が良ければ午後エコアップを行いたくご協力をお願いすることになりました。

（3）会員の声の記事ですが、一部の方に偏っていると思います。難しく考えずに、日ごろビオトープに感じていること（こうあって欲しい、ここは変えて欲しい、など）を気さくに短い文章でも良いので投稿してください。あて先は原田事務局長か編集責任者の西原までメールして下さい。掲載に当たっては、個人や他の団体への誹謗中傷などがあれば、こちらで勝手に修正・掲載中止など行います。

9. 編集後記

久しぶりにビオトープへ。もう道端に菜の花が咲いていた。風もなく穏やかな日差しの中竹林の方から大きな鳥が、白地に黒の混じった羽根を広げゆったりと飛んで行った。道路から眺めるとビオトープに竹が押し寄せているように見える。湿地帯で赤ガエルの卵を見ることができた。

今年の初集会で来年度の計画や今年度内に行いたい作業等を話し合った。この会に参加した頃、毎週手弁当持参でビオトープをつくろうとする頃の多くの人々の姿が浮かんできた。時と共にこつこつ維持管理しながら更にステップアップしていく心身のパワーをなくさない様にしたいと思った。

（ 松本 フデ子 記 ）